

TRAFFIC SCOPE

「TRAFFIC SCOPE」は交通参加者の行動観察を通じて、ドライバーやライダー、自転車利用者、歩行者に守るべきルールがあることを再認識してもらうための連載記事です。

交通参加者の行動を観察する

高速道路と一般道路を走行する車両は車間時間をどのくらいとっているか？

DATA 基礎情報

交通事故で最も多い
事故類型は「追突」

2023年に発生した交通事故件数(30万7930件)を事故類型別にみると、最も多いのは車両相互の追突で29.8%を占めている。さらに、高速道路に限ると、交通事故件数(6324件)に占める追突の割合は73.4%となっている。

道路交通法では「車両等は、同一の進路を

進行している他の車両等の直後を進行する時は、その直前の車両等が急に停止した時においてもこれに追突するのを避けることができるため必要な距離を保たなければならない」と定められている。

追突による事故を防ぐためには、前車と適切な車間距離をとることが必要といえる。今回は、高速道路と一般道路で走行する車両の車間を観察し、車間時間の計測を行った*。

*今回は高速道路と一般道路それぞれで1時間ビデオ撮影を実施。撮影した映像をもとに、前車に追従している車両を対象として動画編集ソフトを使って車間時間を算出した。

WATCHING 観察

乗用車の車間時間は
1.5～2秒未満が最も多い

観察場所Aは、東名高速道路・下り線「厚木インターチェンジ」付近。渋滞の発生はなく、3車線すべてがスムーズに走行できる状況だった。観察中、前車に追従して走行していた車両は乗用車1664台、大型車(トラック・バス等)376台、二輪車19台。走行台数が最も多かったのは中央分離帯寄りの追越車線(第三通行帯)だった。車種別に最も多かった車間時間は、乗用車は1.5～2秒未満(384台・23.1%)、大型車は3.5～4秒未満(64台・17.0%)、二輪車は0.5～1秒未満(7台・36.8%)だった。特に、追越車線を走行する車両に車間時間が短くなる傾向が見られた。

観察場所Bは、国道246号・下り線「新町一丁目交差点」付近。見通しの良い3車線道路だが、歩道寄りの車線(第一通行帯)に駐車する車両が多かったため、実質的には2車線だった。

前車に追従して走行していた車両は乗用車672台、大型車55台、二輪車36台。3車線のうち中央の車線(第二通行帯)を走行する車両が最も多かった。車種別に最も多かった車間時間は、乗用車は1.5～2秒未満(152台・22.6%)、大型車は2.5～3秒未満(16台・29.1%)、二輪車は1～1.5秒未満(20台・55.6%)だった。

いずれの観察場所でも、後続車が前車との車間距離を詰めたり、隣の車線を走行するクルマの間に割り込んだりといった場面があった。また、車間時間を長めにとるドライバーは大型車に多かった。



高速道路(観察場所A)では、追越車線の車列は他の2車線に比べ車間が詰まることが多かった

ADVICE アドバイス

前車との車間時間は2秒以上
確保する必要がある

一般的にドライバー・ライダーが危険を認知してからブレーキをかけるまでの時間は1秒程度。その間もクルマは進んでおり、停止するために必要な制動距離を含めると、車間時間は2秒が目安となる(60km/hで車間時間2秒の車間距離は33.3m)。

目標物(照明や電柱、標識など)を決め、前のクルマがそこを通過してから2秒後に自分のクルマが目標物を通過していれば、速度にか

かわらず適切な車間距離となる。この時、2秒の測り方は、ゆっくり「01(ゼロイチ)」「02(ゼロニ)」と数えることがポイントだ。

また、速度が上がる高速道路を走行する際は、より安全を確保するために車間時間を3秒とってほしい(100km/hで車間時間3秒の車間距離は83.3m)。観察場所Aでは、車間時間1秒未満の乗用車・大型車・二輪車が存在した。これは車間距離の不保持となるだけでなく、一歩間違えれば重大事故になりかねない。

追突による事故を防ぐためには、すべてのドライバー・ライダーが前車と適切な車間時間をとることが必要である。

観察結果

観察場所 A

神奈川県厚木市愛甲
東名高速道路
「厚木インターチェンジ」付近
観察日 / 8月6日(火)
観察時間 / 9:30～10:30
天候 / 曇り



観察中に渋滞することなく、3車線ともスムーズに流れていた

●高速道路を走行中の車両の車間時間

	乗用車 (台)	大型車 (台)	二輪車 (台)
0～0.5秒未満	3 0.2%	3 0.8%	0
0.5～1秒未満	80 4.8%	27 7.2%	7 36.8%
1～1.5秒未満	293 17.6%	30 8.0%	3 15.8%
1.5～2秒未満	384 23.1%	58 15.4%	5 26.3%
2～2.5秒未満	308 18.5%	52 13.8%	1 5.3%
2.5～3秒未満	216 13.0%	46 12.2%	0
3～3.5秒未満	192 11.5%	61 16.2%	3 15.8%
3.5～4秒未満	125 7.5%	64 17.0%	0
4～4.5秒未満	63 3.8%	35 9.3%	0
合計	1664	376	19



後続車が追いついてしまうことで車間時間が短くなるケースもあった



後続車に追いつかれたため、急に車線変更するクルマ

観察場所 B

東京都世田谷区新町
国道246号「新町一丁目交差点」付近
観察日 / 8月6日(火)
観察時間 / 13:00～14:00
天候 / 曇り



3車線あるが、歩道寄りの車線は駐車車両があり、乗用車や大型車の通行は少なかった

●一般道路を走行中の車両の車間時間

	乗用車 (台)	大型車 (台)	二輪車 (台)
0～0.5秒未満	0	0	0
0.5～1秒未満	8 1.2%	1 1.8%	4 11.1%
1～1.5秒未満	37 5.5%	2 3.6%	20 55.6%
1.5～2秒未満	152 22.6%	4 7.3%	5 13.9%
2～2.5秒未満	111 16.5%	12 21.8%	4 11.1%
2.5～3秒未満	100 14.9%	16 29.1%	3 8.3%
3～3.5秒未満	89 13.2%	8 14.5%	0
3.5～4秒未満	96 14.3%	7 12.7%	0
4～4.5秒未満	79 11.8%	5 9.1%	0
合計	672	55	36



前車との車間を詰めて走るクルマ



車間をとって走っているクルマの前に割り込むトラック